

令和8年度 学校経営計画及び学校評価（案）

1 めざす学校像

「一人ひとりの障がい等の状況に応じた最も適切な教育の創造、地域や関係機関との連携を深めていき、ワクワクを“創発”する守口支援学校」をめざす。
支援学校として専門的機能を発揮し、教職員と児童生徒及び保護者との信頼とつながりを深めながら、以下のことを中心とした教育を展開する。
（１）卒業後を見すえ、小学部・中学部・高等部の一貫性のある教育活動を進める中で、豊かな人間性と社会性を育て、自己実現の達成をめざす。
（２）健康の保持・増進に関する習慣や態度を育て、情緒の安定を図り、元気に明るく誠実に生きる態度を養う。
（３）安心で安全な教育環境のもと児童生徒の豊かな個性を活かしつつ一人一人の自己肯定感を高める。
（４）仲間とつながり、地域の人々とともに生きていく喜びを実感する中で、互いを思いやり、尊重しあう態度を育てる。

2 中期的目標 【ポジティブ（P）に、アクティブ（A）に、クリエイティブ（C）に！】

- 1（キャリア教育）子どもたちとともに卒業後を見すえ、自立・自己実現、社会参加に向けた、12年間の一貫性のある胸躍る教育活動を進める。
（１）小学部から夢や志をもって自己の可能性を広げ、**積極的に**粘り強くチャレンジする姿勢を育むキャリア教育の推進。（P）
（２）学部間の連携を深め、三学部の連続性のある学びを**構築**し教育活動の検証や改善を進めることによる組織の活性化。（C）
（３）関係機関と**能動的に**連携し、一人一人が希望する進路の実現を支援する体制の充実。（A）
（４）キャリア教育の教育的意義を正しく理解し、保護者のニーズに対応できる基礎的な知識・技能の**構築**。（C）
- 2（教育力向上）教員としての資質、魅力ある（期待に応えられる）教育力、そして、これからの時代の変化に対応できる学校組織力の向上
（１）指導力、授業力の向上を組織的に推進し、子どもたちにとって「**独創的かつ魅力的かつ分かりやすい授業**」の実施をめざす。（C）
（２）一人ひとりが「高度な専門職として」より確かな人権意識を身に付け、組織として特別支援教育に関する専門性の向上をめざす。（A）
（３）教員間の意思疎通を図り、相互に高めあう職場環境づくりにより、教職員の組織力の向上を図る。（A）
（４）ICT機器の**積極的**かつ効果的な活用により、学びの深化を図り、ICT機器に関する保護者のニーズを把握し、検討を重ねる。（A）
- 3（安全安心）人権を尊重し、保護者や地域から信頼され、安心・安全に過ごせ、**楽しい**学校づくり
（１）教育活動全体を通して保健・安全・衛生管理の指導・支援の徹底を図り、安全で安心な教育環境を**推進**する。（A）
（２）危機管理体制の充実に向けた防災教育に取り組み「**主体的に行動する態度**」と「助け合う」意識の向上。（A）
（３）人権意識をもって**ポジティブ**な関わりと体罰防止と個人情報 の適正な管理運用を行う体制の確立。（P）
（４）大阪府立学校の業務量管理・健康確保計画に基づき、教職員が健康に効率よく業務に**邁進**できるよう働き方改革を推進し、教育活動充実を図る（A）
- 4（地域連携）センター的機能の充実と、地域社会の中で自己肯定感と自己有用感を高め**意欲的に**生きるための地域連携の推進
（１）センター的機能の発揮や内容の充実により、校内外ともに教員の専門性の向上を図る。（A）
（２）魅力的な取り組みを**積極的**に情報発信するなど広報活動の充実により保護者、地域、関係機関との連携を深める。（P）
（３）交流及び共同学習の充実や地域活動への**積極的**参加で相互理解を深める。（P）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R7年度値]	自己評価
1 自立・自己実現、社会参加に向けた、一貫性のある教育活動の推進	（１） 児童生徒が夢や志をもって粘り強くチャレンジする姿勢を育むキャリア教育の推進。 （２） 学部間の連携と情報共有を深め、三学部の連続性のある学びの構築	（１） ア 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」のより一層の活用 イ 児童生徒等の状況に応じた指導の工夫と改善 ・校則や校内ルールの確認 （２） ア 生徒の状況や実態に応じた適切な教育課程の編成と２期制申請に向けた検討 ・三学部の連続性、一貫性を重視した校外行事の実施 ・学年ごとの授業体制等に向けて検討する ・三学部の連続性、学びの構築が実現できるシラバスの見直し	（１） ㊦「教職員は子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している」90%以上維持[88.1%（2.3P↓）] ア ・校務支援システムの導入に関わるPTを立ち上げ、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の新様式システムの活用とマニュアルが作成できたか。【教】【支】 イ ・「生活の決まり」、「自転車通学」について運用改善点等を確認できたか。【児】 （２） ア ・R5年度に改定した校外行事シラバスに合わせた校外学習や泊行事の実施、内容の検証ができたか。【首】 ・学年ごとの授業体制の引き続きの検討、課題の解消ができたか。（主に中学部）【教】 ・R9年度のPT立ち上げを目標に方向性の確認を行うことができたか。【教】	

府立守口支援学校

	(3) 一人一人が希望する進路の実現を支援する体制の充実。 (4) キャリア教育の教育的意義を正しく理解し、保護者のニーズに対応できる基礎的な知識・技能の構築。	・「二期制」の導入、検証及び改善点の定着 ・全校3大行事（むつみ祭等）の検証 (3) ア ・児童生徒の進路選択における教育活動の充実と進路指導に関する体制づくりの検討 小中学部：進路学習の整理と進路学習に繋がる取り組みの共通理解を進める。 中学部：進路指導の充実と職場体験学習の改善 高等部：各学年で主体性のある進路学習の実施。 魅力ある職業自立コースに向けての検討 ・保護者への進路に関する情報提供の充実 イ ・定着支援、アフターフォローに向けた取り組みの充実 ・年間を通じて卒業生が相談できる体制を構築する。 (4) ア 「キャリア教育」の推進に向けた専門性向上 ・基礎的な知識、技能の構築。 ・進路指導への理解推進のための校内研修 ・効果的な職員施設見学会の実施 ・職業「クリーニング」について校内研修	・「二期制」を導入し、反省アンケートを実施、検討、改善ができたか。【教】 ・PT を立ち上げ実状に応じた行事の実施について、意見交換の上、検討できたか。【首】 ㊦「学校は保護者のニーズを踏まえた教育活動に取り組んでいる」90%以上維持[89.3%（5.6P↓）] ㊧「児童生徒の学びを支援するため、学部間の連携が円滑に行われうまく機能している」75%以上維持[83.3%（2.3P↑）] (3) ア ・それぞれの学部で進路指導進路学習の「具体的な取り組み計画や内容」の整理と改善検討実施ができたか。【進】 ・中学部において地域の実習先の新規開拓ができたか。【進】 ・中学部、高等部においてアビリンピック見学の内容を学習にいかせたか。【進】 ・職業自立コース校外学習を系統立てて、なおかつ主体的に実施することができたか。【進】 ・高等部教育課程 PT で検討した内容を運用し、検証を行うことができたか。【教】【進】【高部主事】 ・保護者対象の説明会や実習先就労先の見学会（8か所以上、各会5名以上参加）を気候等を考慮して時期を検討し実施できたか。【進】[各回申し込みは5～12 名あった] イ ・旧担任等による進路先訪問（R7 卒業生全員）が実施できたか。【進】 ・卒業生対象の相談会（R6,7 年度卒業生）を年2回実施し、その中で「はたちを祝う会」を実施できたか。【進】 (4) ア ・小、中学部教員が「高等部コース制」の研修へ参加し本校の進路指導等に理解を深めることができたか。【進】 ・全校教員対象の「進路指導に関する研修会」を実施できたか。【進】 テーマ：未定 ・高等部3年生担任対象に「進路決定までの流れ」をテーマにミニ研修を実施できたか。【進】 ・7月に訓練校等も含む施設見学会を実施できたか。【進】 ㊦「学校は子どもの将来の進路や職業について段階や実態に応じて適切な指導や助言を行っている」80%以上維持[75%（6.4P↓）] ・高等部の全教員対象に「クリーニング」について研修を行うことができたか。【進】	
2 教員としての資質と教育力の向上と組織力の向上	(1) 教員全員の指導力、授業力の向上を組織的に推進し、子どもたちへ「魅力ある授業」の実施	(1) ア 「各教科の内容充実」、「横断的な指導」実施に向けた検討 イ ・授業力向上のための授業見学や公開授業の充実と工夫の実施 ウ 校外の研修等の情報共有 ・府内外の研修への積極的に参加と伝達講習の計画的な実施徹底。 ・効果的な研究協議の方法の検討、実施	(1) ㊦「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」80%以上[76.2%（2.6P↓）] ㊦「教職員は子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している」90%以上維持[88.1%（2.3P↓）] ㊧「児童生徒の実態を踏まえ指導内容や指導方法、学習の形態の工夫改善精選を行っている」85%以上維持[93.5%（1.5P↓）] ア ・全校教科会で各教科に関する授業内容の充実に向けた具体的な授業改善を進めることができたか。【教】 ・各学年等で「横断的な指導」に向けて検討することができたか。【教】 イ ・初任者と10 年目研修者の研究授業を公開できたか。【支】 ウ ・職員会議で伝達講習の実施ができたか。（各主事、首席等対象）【支】 ㊧「研修・研究に参加した成果を他の教員に伝える機会を設けられている」75%以上維持[74.1%（5.9P↓）] ・効果的な研究協議の方法について周知し、実施することができたか。【支】	

府立守口支援学校

	(2) 「高度な専門職として」より確かな人権意識を身に付け、専門性の向上をめざす (3) 教員間の意思疎通を図り、相互に資質を高めあう同僚性の高い職場環境づくり (4) ICT 機器の積極的かつ効果的な活用による学びの深化。	エ 校内研修の充実を図る ・教員を講師としたテーマ研修や事例検討等の「もりぐち Lab」の継続実施 ・充実した部別研修の実施形態の検討 ・教員のニーズを聞き取り、見合った校内研修を実施 ・校内研修の体系化 (2) ア 専門性の向上 ・研修を実施し「児童生徒の実態把握」等の手段についての学びを深める ・初任者及び教職経験年数5年以内の教員のサポート体制を年間の計画も含め再検討する。 イ 人権意識の向上 ・「児童生徒の人権を守るためにできること」、「自己肯定感を高める取り組み」についての学習会を実施 (3) ア 職場におけるハラスメントの防止 イ 教員間のコミュニケーション機会増 ・研修等を活用したコミュニケーション機会の設定 (4) ア ICT の効果的な活用 ・ICT 機器やアプリ、クラウドサービスの活用支援方法の研修を実施 イ ICT を活用した教材づくり ・「オンラインストレージ」を活用した教材データの整理と活用	エ ・「太田ステージ」、「事例検討」をテーマに講習会を実施し、参加率 70%以上。【支】 ・部別研修の具体的な取り組みテーマや運営計画検討し、継続して実施できたか。【支】 ・全校の研修体制、運営方法について検討ができたか。【支】 ⑧「校内の研修は教育実践に役立つような内容になっている」75%以上維持[88.0%（8.0P↑）] ⑧「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」80%以上維持[86.1%（6.1P↑）] (2) ⑨「教職員は子どもの障がいについて理解している」90%以上維持[91.1%（3.1P↓）] ⑧「初任者等、経験の少ない教員を校内で育成する体制がとれている」65%以上[63.9%（3.9P↑）] ア ・指導教諭による「児童生徒の実態把握」等研修を実施できたか。【支】 ・講師経験のない教員が講師になり、校内での研修をできたか。【支】 ・年間を通して全 10 回校内初任者研修を計画的に実施できたか。【支】 ・初任者及び教職経験年数5年以内の教員の北河内支援教育 Lab への参加率 100%【支】 ・バディ制度の再検討ができたか。【支】 イ ・人権に関する学習会や校内研修の内容、時期を精査し、年に2回実施できたか。【人】 (3) ア ⑧「教員間におけるセクハラ、パワハラ等の人権侵害事象が発生しないために啓発を行っている」85%以上維持[84.3%（0.7P↓）] イ ・研修等の場を活用し、前年度以上にコミュニケーション機会を作り出せたか。【支】 ⑧「日々の教育活動における問題意識や悩みについて気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができている」75%以上維持[80.6%（0.6P↑）] ⑧「教職員の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」80%以上維持[99.1%（14.1P↑）] (4) ア ⑨「学校は子どもに1人1台端末(タブレット PC)等を効果的に活用している。」50%以上[46.4%（10P↓）] ・授業に役立つ ICT 活用の研修（参加率 70%以上）やミニ研修会（参加率8人以上/各回）が学期に1回以上実施できたか。【情】 ・本校の ICT 活用の取り組みについての保護者対象説明会を実施できたか。【情】 イ ・全教員がオンラインストレージ内に教材を格納できたか。【情】 ・ICT 機器とそれ以外の教材を効果的に個別最適な活用できたか。【情】	
3 保護者から信頼される学校づくり 人権を尊重し、児童生徒・	(1) 保健・安全・衛生管理に関する指導・支援の徹底を図り、安全で安心な教育環境を推進	(1) ア 校内の防災、緊急時への備えの充実 イ 事故防止に向けた研修の充実や施設整備や安全点検の適切で迅速な対応	(1) ア ⑨「地震や台風などの場合、児童・生徒にその対応が知らされている」90%以上[97%（0.8P↑）] ・備蓄品の追加発注等の管理ができたか。【首】【健】 ・定期的な通学バス安全研修、バス連絡会（安心メール、バス携帯等の操作方法確認含む）の実施が定着したか。【児】 イ ⑨「学校は施設・設備の点検、事故防止に配慮している」70%以上維持[72%（1.5P↑）]	

府立守口支援学校

	(2) 危機管理体制の充実に向けた防災教育の取り組み推進 (3) 体罰防止と個人情報 の適切な管理運用を行う体制の確立。 (4) 業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進し、教職員が健やかに児童生徒に接する心構えを育成。	ウ 食育・学校給食の充実に向けた取り組みの推進 (2) ア 防犯、防災学習の充実に向けた検証と改善 イ PTA、関係機関と協働した防災体制の推進 (3) ア 人権アクションプランに基づいた行動の継続推進 イ ・個人情報 の取り扱いに対する意識向上 (4) ア ワークライフバランスを意識した働き方への意識改革	㊦ 「施設・設備について日常的に点検や管理が行われている」80%以上維持[87% (O.OP↑)] ・食物アレルギーの緊急時対応用アクションカードの定着ができたか。【食】 ・食物アレルギー対応マニュアルに基づいた対応を実施できたか。【食】 ウ ・給食人気ランキング投票や全国学校給食週間等で児童生徒が興味関心を持てるような取り組みを行っているか。(給食実態調査「㊦給食に興味関心がある(「ある」85%以上)」[85%]【健】 ・学校給食を教材として活用したか(給食時間における食に関する指導、教科等における食に関する指導等)(給食実態調査「㊩「今日の給食室だより」を活用したことはありますか? (「はい」100%)」[56%]【健】 (2) ア ・前期の防災教育並びに外部機関と連携した避難訓練を2回以上実施し、より有事を想定した安全研修が実施できたか。【健】 ・昨年度の反省をいかし、保護者と共に「引き渡し訓練」を実施し、各行事で引き渡し場所の啓発ができたか。【児】 イ ㊦ 「学校は大規模災害に備え迅速かつ適切な対処ができるよう対策の検討と整備を行っている」80%以上維持[84.5% (2.7P↓)] (3) ア ・継続して人権侵害事象ゼロであったか。【人】 ・人権に関する学習会や校内研修の内容、時期を精査し、年に2回実施できたか。【人】[年2回] ・全校で児童生徒へ「さん」「くん」の呼名徹底を含め、全てのアクションプランの啓発活動ができたか。【人】 イ ・誤配付防止に向けたクラスごとのミニ学習会を4月と夏季休業中に開催し、クラス内での確認、また他クラス等と情報交換できたか。【個】 ・個人情報目録に沿って、文書・データを適切に管理することができた。【個】 (4) ア ・定時退勤日(週1回)の徹底実施と時間外勤務時間がR7より10%削減できたか【管】 ・年間の時間外在校等時間が720時間を超える教育職員をゼロにする。【管】 ・月の時間外在校等時間45時間超をゼロにする。【管】 ・年間360時間超の人数を前年度より減少させる。【管】 ・ストレスチェックの「総合健康リスク指数」100以下[100]【安】	
4 センター的機能の充実と地域連携の推進	(1) 支援学校のセンター的機能の発揮や内容の充実。 (2) 本校の魅力的な取り組みを積極的に発信するなど広報活動の充実により保護者、地域、関係機関との連携強化。	(1) ア 関係機関との連携強化 ・新就学、進学に向けた市教委との情報共有 ・センター的機能の発揮 地域の学校教員対象の研修会(「北河内支援教育Lab」)の開催 (2) ア ホームページの充実を図る ・定期的なブログUPによる教育活動の紹介 ・見やすいホームページに向けた検討	(1) ア ・就学に向けた市教委との連絡会の時期を早め、実施(3回以上)【小・部主事】[対面で4回] ・2か月に1回、職員会議で地域支援整備事業の報告をすることができたか。【支】 ・北河内支援教育Labへ参加率を上げることができたか。【支】(校内の参加人数20人以上/各回) ・地域等を対象とした活発な公開授業を実施できたか(校外から10人以上参加/各回)【支】 ・より多くの教員が授業見学できるよう検討し、実施できたか(他学部・他学年など2つ以上見学)。【支】 (2) ア ・ブログの閲覧回数が昨年度を上回ることができたか。(R7年度14650回)【情】 ・ホームページの内容を検討することができたか。(パスワード対応ページ等)【情】 ・防犯、防災訓練の様子をHP等で発信できたか。【児】 ㊦ 「学校はHPの学校ブログ等で子どもたちの様子を知る機会を設けている」75%以上維持[88.7% (6P↑)]	

府立守口支援学校

	(3) 交流及び共同学 習の充実や地域 活動への積極的 参加で相互理解 の構築。	イ 本校の教育活動に係る広報、理解啓発資料 の改訂版の作成 (3) ア 近隣校との交流の充実と地域の交流活動 への参加 イ 地域でのあいさつ、清掃運動実施 ・児童生徒活動、全校集会の検討と見直しによ る充実した活動の実施	イ ・守口市内の中学校（8校）を対象に本校が主体となり、広報活動 を実施する機会を設けられたか。【部主事】【首】【進】 ・PT を立ち上げ、「大阪教育ゆめ基金」について検討することがで きたか。【首】 (3) ア ・各学部主事や係より交流活動の報告会を行い全校で共有できた か。保護者へも交流の活動を周知できたか。【部主事】 ・居住地校交流を積極的に進めることができ、昨年度より参加件数 を増やすことができたか。【小、中・部主事】[35 件] ㊦「学校は子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設け ている」85%以上維持[92.2%（5.7P↑）] ㊧「近隣の小中高等学校との交流の機会を積極的に設け教育全般 に活かしている」80%以上維持[83.4%（0.6P↓）] イ ・二期制に合わせて内容等検討し、全校集会を実施できたか。【児】 ・校内外のあいさつ、清掃運動実施（前期・後期各 1 回）できた か。【児】	
--	---	---	--	--